

研究ノート

幼稚園における講演会と親子活動に関する研究

山口 茂嘉 (岡山大学教育学部) 近藤 優恵 (岡山大学教育学部)

高見 裕子 (岡山市立伊島幼稚園) 小田 久美子 (兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)

本研究の目的は、子育て支援の一環として試みた講演会や親子での活動が保護者にどのように受け止められ活動の後で変化をもたらしたかをアンケート調査し、今後の講演会や親子活動のあり方を考える上での基礎資料を得ることである。その結果、親子と一緒に活動するものや内容が具体的で保護者のニーズに対応したものが、参加率が高く、男女共7割以上の保護者が参加する前より考え方を変化させている。そして、親子参加型の子育て支援が望まれていることが明らかになった。

キーワード：子育て、講演会、親子活動

I. 目的

幼稚園での子育て支援の一つとして最も一般的なものが保護者を対象とした講演会である。これらの講演会に関する評価や効果等についての先行研究は、ほとんど見られない。そこで、本研究では、平成12年度に実施した講演会について、参加した保護者を対象に内容についての評価と、講演会後に子育てに対する考え方にどのような変化があったか、また次年度の講演会にどのようなものを希望するかということについて調査し考察を加える。

II. 方法

対象者：岡山市内のF幼稚園の3歳児、4歳児、5歳児の全保護者160名、

期間：平成12年4月～平成13年3月、

方法：下記の項目のアンケートによって調べる。

- ・講演会や親子活動への出欠を記入する。
- ・参加した感想を4段階で評価する。評価基準は、「特によかった・・・◎」、「よかった・・・○」、「どちらでもない・・・△」、「難しかった・・・×」である。
- ・参加したことによって、子育てについての考えの変容の有無、変容したと考えられる内容を記述してもらう。

III. 結果と考察

アンケート用紙の回収数は102部で、回収率は63.8%であった。

1. 保護者の参加状況と保護者による各講演と活動に対する評価

参加の状況を見ると、第1回から12回までの講演会と親子活動で、最低で32.4%、最高で97.4%の参加があり、参加者の数は回を重ねるごとに安定して、最終的には平均78.3%の出席率であった(表1)。

幼稚園側からの期日・内容についての案内が、会の開催直前であったり、12回の会の内容が、親子と一緒に取り組む活動と講演では、保護者の会に対する出席への意欲のもち方も違うので、単純に比較することはできないが、③「一年生になるにあたって」⑥「夜の動物園」⑩「おにぎりパーティー」では90.0%を越える参加者があった。すなわち、具体的な内容のものの方が参加者の率は高いようである。

さらに、12回の内容については平均で89.0%の保護者が「特によかった」、「よかった」と評していた。特に②「親子体操」⑥「夜の動物園」⑧「日曜参観」⑨「講話「子どもへの接し方」⑩「親子体操」⑪「おにぎりパーティー」⑫「親子体操」には、「よかった」と評価している者が90%強という高い数値が見られた。これらの結果から、保護者にとっては親子で一緒にする活動に関心があることや、参加型の活動に、満足感が高いと考えられる。また、小学校進学前の年長児の保護者にとっては、附属小学校一年担当の先生方による講演は、保護者のニーズに対応したものであったと考えられる。

表1 参加した講演会・活動及びその内容について

講演会・活動 (年・月・日)	クラス	3年保育	2年保育	3年保育	2年保育	3年保育	計		出席率
		3歳	4歳	4歳	5歳	5歳	(%)		
①「わらべうた講習会」 (親子一緒) (H.12.5.26)	回収数	男8女9	男10女14	男12女10	男10女10	男9女10	男49女53		
	出席数	男2女0	男1女3	男9女11	男1女1	男2女3	男15(30.6)	女18(34.0)	32.4%
	◎	男1	男1女1	男2女6		男1	男5(33.3)	女7(38.9)	
	○	男1	女1	男5女5	男1女1	女1	男7(46.7)	女8(44.4)	
	△			男1		男1女1	男2(13.3)	女1(5.6)	
	×		女1					女1(5.6)	
	無回答			男1		女1	男1(7.0)	女1(5.6)	
②「親子体操」 (うめ・もも組) (H.12.6.14)	出席数	男8女9	男10女0			男0女1	男18(100.0)女10(43.5)		65.9%
	◎	男4女5	男4				男8(44.4)	女5(50.0)	
	○	男3女4	男6			女1	男9(50.0)	女5(50.0)	
	△	男1					男1(5.6)		
	×								
	無回答								
③「一年生になるにあたって」 (H.12.6.23)	出席数				男10女9	男8女10	男18(94.7)女19(95.0)		94.9%
	◎				男1女5	男5女2	男6(33.3)	女7(36.8)	
	○				男8女3	男3女6	男11(61.1)	女9(47.4)	
	△				女1	女2		女3(15.8)	
	×				男1		男1(5.6)		
	無回答								
④「講話「幼稚園での遊びについてービデオを通してー」 (H.12.7.1)	出席数	男5女4	男8女10	男5女8	男8女7	男7女9	男33(67.3)女32(60.4)		63.7%
	◎	男2女3	男2女1	女1	女1	男3女1	男7(21.2)	女14(18.4)	
	○	男2女1	男4女9	男3女4	男8女6	男3女7	男20(60.6)	女27(71.1)	
	△	男1	男1	男2女2		男1女1	男4(12.1)	女2(7.9)	
	×								
	無回答		男1	女1			男1(3.0)	女1(2.6)	
⑤「思春期から見た幼児期の子育てを考える」 (H.12.7.12)	出席数	男7女6	男5女7	男7女5	男8女7	男5女7	男32(53.1)女32(60.4)		51.0%
	◎	男4女3	男3女3	男2	男3女4	男4女4	男16(50.0)	女14(43.8)	
	○	男3女3	男1女4	男3女4	男4女2	男1女2	男12(37.5)	女15(46.9)	
	△		男1	男2	男1女1	女1	男4(12.5)	女2(6.3)	
	×								
	無回答			女1				女1(3.1)	
⑥「夜の動物園」 (H.12.7.14)	出席数				男10女10	男7女10	男17(89.5)女20(100.0)		94.9%
	◎				男5女6	男4女3	男9(52.9)	女9(45.0)	
	○				男5女4	男3女6	男8(47.1)	女10(50.0)	
	△					女1		女1(5.0)	
	×								
	無回答								
⑦「講話「今、親として」 (H.12.11.20)	出席数	男6女6	男5女9	男4女9	男6女9	男5女5	男26(53.1)女45(72.0)		62.7%
	◎	男4女4	男2女5	女4	女4	男4	男10(38.5)	女17(44.7)	
	○	男2女2	男2女4	男2女3	男6女5	男1女5	男13(50.0)	女19(50.0)	
	△			男2女1			男2(7.7)	女1(3.8)	
	×								
	無回答		男1	女1			男1(3.8)	女1(3.8)	

⑧日曜参観日 (H.12. 1.17)	出席数	男 8 女 7	男 9 女 10	男 10 女 11	男 10 女 8	男 7 女 9	男 44(89.8)女 38(72.0)		80.4%
	◎	男 2 女 7	男 4 女 2	男 1 女 6	男 5 女 4	男 6 女 4	男 18(40.9)	女 23(51.5)	
	○	男 6	男 4 女 7	男 7 女 4	男 5 女 4	男 1 女 5	男 23(52.3)	女 20(44.4)	
	△		男 1	男 1			男 2(4.5)		
	×								
無回答		女 1	男 1 女 1			男 1(2.3)	女 2(4.4)		
⑨講話「子どもへの接し方」 (H.12. 1.19/26)	出席数	男 6 女 7	男 4 女 8	男 6 女 10	男 9 女 7	男 5 女 5	男 30(61.2)女 37(69.8)		65.7%
	◎	男 4 女 7	男 2 女 5	女 3	男 3 女 4	男 3 女 3	男 12(40.0)	女 22(41.5)	
	○	男 2	男 2 女 3	男 5 女 3	男 6 女 3	男 1 女 2	男 16(32.7)	女 11(29.8)	
	△			男 1		男 1	男 2(4.1)		
	×			女 1				女 1(2.7)	
無回答			女 3				女 3(8.1)		
⑩「親子体操」 (H.13. 2.23)	出席数	男 6 女 9					男 6(75.0)女 9(100.0)		88.9%
	◎	男 3 女 6					男 3(50.0)	女 6(66.7)	
	○	男 3 女 2					男 3(50.0)	女 2(22.2)	
	△								
	×	女 1						女 1(11.1)	
無回答									
⑪「おにぎりパーティー」 (H.13. 2.27)	出席数				男 10 女 10	男 8 女 10	男 18(94.7)女 20(100.0)		97.4%
	◎				男 6 女 7	男 7 女 4	男 13(72.2)	女 11(55.5)	
	○				男 4 女 3	女 5	男 4(22.2)	女 8(40.0)	
	△					男 1 女 1	男 1(5.6)	女 1(5.0)	
	×								
無回答									
⑫「親子体操」 (H.13. 3.19)	出席数		男 7 女 11	男 7 女 11			男 14(63.6)女 22(91.7)		94.4%
	◎		男 4 女 6	男 2 女 7			男 6(42.9)	女 13(59.1)	
	○		男 3 女 4	男 5 女 3			男 8(57.1)	女 7(31.8)	
	△								
	×								
無回答		女 1	女 1				女 2(9.1)		
							平均出席率	男 72.7%女 78.2%	78.3%

2. 講演会・活動後生活に活かすことができたことについて

表2より、どの会においても様々に生活に活かすことができているが、特に②「親子体操」③「一年生になるにあたって」⑤「思春期から見た幼児期の子育てを考える」⑥「夜の動物園」では、6割以上の保護者が、その後の生活に活かすことができたことと回答している。③についてはその内容から、小学校進学に対して不安を抱いていた保護者が、一年担当の先生によるお話を聞くことでその不安が解消されたり、入学までに心がけておきたい生活習慣などについて聞いたことで、子どもに具体的な指導をしや

すくなったことがうかがえる。また②、⑥については、親子一緒に参加したことで共に喜びを味わい、家庭での取り組みにつながっていったのではないかと考えられる。

表2 講演会・活動後、生活に生かすことができたこと

	クラス	3年保育 3歳	2年保育 4歳	3年保育 4歳	2年保育 5歳	3年保育 5歳	計	%
	生活に活かすこと							
①	家でも手遊びをしている		男1女2	男3女2			男4女4	男 60.0 女 38.9
	子どもと一緒に楽しむことができた	男1	女2				男1女2	
	その他	男1		男2女1		男1	男4女1	
②	家庭でも親子体操をしている	男3女2	男5女3				男8女5	男 66.7 女 100.0
	親子のスキンシップの大切さを再認識し、大切にできるようになった	男2女1	男2女3			女1	男4女5	
	その他	女1					女1	
③	小学校進学への心構えができた				男5女4	男2女2	男7女6	男 88.9 女 73.9
	生活習慣に気をつけるようになった子ども				男1女1	女1	男1女2	
	もの良い所をみつけて誉めてやるよう心がけるようになった				男1	男2女2	男3女2	
	その他				男2女3	男3女3	男5女6	
④	子ども達も自分の世界があることを認識し、尊重するよう心がけるようになった	男1	男2女1		男5女6	男3女3	男11女10	男 48.5 女 50.0
	他の保護者の方とディスカッションすることができてよかった	女2	女2	男1			男1女4	
	その他			男1	男2	男1女1	男4女1	
⑤	幼児期の大切さを再認識した	男1女1	男1女1	男1	男3	男1女1	男7女3	男 62.5 女 40.6
	子育てを振り返ったり、親としてのあり方を反省するきっかけとなった	男2女1	男1女1		男4女3	男4女3	男11女8	
	子どもの発達について学ぶことができた		女1	男2	女1		男2女2	
	その他				男1女1		男1女1	
⑥	父親も参加することができてよかった				女1男1	男1女1		男 88.2 女 80.0
	夜の動物の生態を知ることができた				男2女5	男4女6	男6女11	
	子どもと一緒に楽しむことができた				男3女1	男2	男5女1	
	その他				男3女2	男1女1	男4女3	
⑦	子育てを振り返りかえったり、親としてのあり方を反省するきっかけになった	男4	男2女3	女1	男3女3	男2女2	男11女9	男 69.2 女 34.2
	子育てに見通しをもつことができるようになった		女1		男1	男1	男2女1	
	その他	女2			男2女1	男1	男3女3	
⑧	父親の参加で、家族の絆が深まった	男2女1	女4	男1	男4女1	男1女3	男8女9	男 63.6 女 51.1
	家ではあまりできない季節の行司をすることができ、その意味も知ることができた	男3女1	男3女4	男2女1	男3女3	男4女2	男15女11	
	その他	女2			男2女2	男1	男3女4	
⑨	子どもを認めてあげること、しっかり話をすることに注意をはらうようになった。	男1女1	男1女2	男2	男6女1	女3	男10女7	男 60.0 女 35.1
	子育てを振り返りかえったり、親としてのあり方を反省するきっかけになった	男2女1	女1	男1	男1女3	男3	男7女5	
	その他	男1				女1	男1女1	

⑩	家でも親子体操をしている	男 3					男 3	男 83.3
	スキンシップの大切さを実感した	男 2 女 3					男 2 女 3	女 33.3
⑪	野菜を育てて、収穫し、食すという喜びを				男 2 女 2	男 1 女 1	男 3 女 3	男 72.2 女 75.0
	親子で味わうことができた							
	子どもの成長を感じることができた				男 1 女 1	男 2 女 3	男 3 女 4	
	以前よりも好き嫌いが少なくなった				男 1 女 2		男 1 女 2	
	家庭でも手伝いをするようになった				男 1 女 3	男 1 女 3	男 2 女 6	
	その他				男 3	男 1 女 2	男 4 女 2	
⑫	家でも手あそびをしている		男 1 女 4	男 4 女 2			男 5 女 6	男 42.9
	親子で楽しむことができた		男 1 女 4	女 1			男 1 女 5	女 54.5
	その他		女 1				女 1	
						平均値	男 62.0	女 60.3 %

以上より、保護者や子どもにとって現実の生活に組み入れられやすい内容であることが、生活に活かすことができるか否かにかかわっているのではないかと考えられる。

3. 講演会や活動後の考え方の変化について

講演会や活動に参加した後に、「子どもを育てること」についての考え方に変化があったかどうかについては、表 3 より、男女とも 70% 以上の保護者が参加する以前より考え方が「変化した」と回答している。すなわち「変化した」とそれ以外（「変化しない」、「どちらともいえない」、「無回答」）との平均値の差は 50% であった。次に「変化した」と回答した対象者に「変化したと思われること」について質問したところ、(1) 子どものしていることが理解できたり理解しようと思うようになった、(5) 子どもと一緒に行動できる期間は短いので毎日を大切に積み重ねていこうと思った、(6) 子育ては自分自身も成長することであり、子どもと共に一歩ずつ歩いていこうと思うようになった、という項目で 6 割から 7 割強の回答が見られた（表 4）。

以上の結果より、子育てを支援するための 6 回の講演会と 6 回の親子での体験活動に参加した保護者は、それぞれが子どもを大切にし今の時期を大切にすることが、結局は親である自分自身が成長することにつながると意識するようになったと考えられる。しかし (3)、(4)、(8) の回答から、子育てに対する不安を少し解消できたり、他の保護者と共に心を開

き手を携えていくことについては、依然として保護者の中に不安も残っており、これらのことは、すぐには解決できない課題であると考えられる。これらについては、次年度以降の講演会や活動を考える上でも課題として残っている。

4. 今後の子育て支援に対しての要望

親子参加型子育て支援を望む声があり、親子が、限られた時間ではあるがお互い向き合って過ごすことやその機会を望んでいる。しかも、子どもを傍らで見たり援助したりするだけでなく、保護者自身も参加できることを望んでいる。また、話を聞くだけでなく、自分の考えを述べ、自分の考えを確かめていこうとする姿勢がうかがえる。共に同じ世代の子どもをもつ親としての考えを、自分なりに確かなものにしていきたいという気持ちが強いとも考えられる。保護者による会の持ち方、内容、講師などについての希望を以下のようにクラス別にまとめた。

(数字は希望者の実数を表す)

3年保育	・子どもと一緒に体験(男1女1)
3歳児クラス	・兄弟について(男1) ・子育て(安心できる内容)(男2) ・絵本(男1) ・子どもの生活習慣の変化と健康(病気)(男1) ・異文化に触れる(女1) ・日常生活の大切さ(女1)
2年保育	・子どもと一緒に体験(男1女1)
4歳児クラス	・子育て(男1) ・体操(男1) ・生活習慣病予防(女1) ・子どものストレス(女1) ・環境問題(女1) ・外部講師(男2女4) ・園長先生の園でのエピソードを交えた話(女1)
3年保育	・子どもと一緒に体験(男2女3)
4歳児クラス	・子育てについて(安心できる内容)(男1) ・ロールプレイを取り入れたもの(男1) ・生活習慣(男1女1) ・卒園児の現状(女1) ・研究結果(女1) ・幼稚園のこの時期の子育て(女1) ・外部講師(男2)
2年保育	・子どもと一緒に体験(男1)
5歳児クラス	・親の精神面に関する話(女1) ・グループディスカッション(男1女1) ・子育てに関するもの(男1) ・子どものけんかへの対応(女1) ・外部講師(男1女1)
3年保育	・子どもと一緒に体験(女2)
5歳児クラス	・子育て以外のもの(女1) ・児童期、青年期の子育て(女1) ・実体験談のできる講師の話(男1) ・父親も参加できる会の持ち方(女1) ・日曜日に父親への講演(男2) ・親の精神面に関する話(男1) ・外部講師(女1)

以上のまとめから講演の内容及び講師については、「子育てのありがたさについて」「今どのような子どもに育てればよいか」が一番多く、次に「幼児期の子どもの心や心身の発達、病気」である。そして子育てについて安心できる、あまり堅苦しくないホッとできる内容であることを望んでいる。一方で、保護者としてだけでなく、一人の人間として自分自身に磨きをかけていくための内容が望まれている。

具体的な外部講師としては、学問上の理論的なことだけではなく、次のような人が求められている。

- ・子育てあるいは自分が歩んできた体験や経験をもとに具体的に話してくださる人(OBの母親も含めて)
- ・子育てや家族の一員としての生き方と人間としての生き方を求めている人
- ・医者などの専門家

そして、自分の生活範囲以外の人の話を聞き、現在の自分では経験できないことを疑似体験することを保護者は望んでいるようである。その他、このような会をもつにあたっての希望としては次のことが挙げられる。

- ・年間の予定及び会の期日を早めに知りたい
- ・託児があれば参加しやすい
- ・会の開始時間を中途半端にしないでほしい

以上3点のことは、複数の子どもをもつ親、家事を切り盛りしている母親にとっては当然のことであろう。また家族によっては、育児は母親のみだけでなく父親も共に同じ方向を目指していきたいという希望によるものである。つまり人から与えられたものに満足するだけでなく、自分たちの欲求に合った人を選んでほしいという思いを取り入れることが必要である。

IV. 結 語

子育てについての講演会や親子活動について次のようにまとめることができる。

- ①保護者の子育てについての講演会・親子活動に対して、その参加状況は、高出席率となっていて、高い関心をもっていることがわかる。特に「親子体操」「一年生に進級するにあたって」「夜の動物園」では、90%以上の参加があり、親子と一緒に活動するもの、内容が具体的で、その時期の保護者のニーズに対応したものの方が、参加率が高いことがわかった。
- ②内容についての保護者の評価については、親子が

一緒に活動するものが多く、より満足感を得ていると考えられる。

③講演会や親子活動後に、その内容をより生活に生かすことができるものとして、保護者や子どもにとって現実の生活にあっており、今必要だと考えられる内容と時期、またその後の生活に組み入れられやすい内容であることが挙げられる。

④講演会や親子活動後、70%以上の保護者が参加する前より、考え方が変化していることがわかった。講演会や親子活動に参加してきたことで、子どもを大切に、今のこの時期を大切にすることが、結局は親である自分自身が成長することにつながるという意識するようになったと推察される。

⑤子育てに対する悩みを少しでも解消できたり、他の保護者と共に心を開き手を携えていったりすることであり、子育てを根気強く支援していくことが必要である。

⑥保護者の中からは、講演会や親子活動の経験を通して、親子参加型子育て支援を望む声があり、保護者自身も活動に参加し、子どもと向き合って過ごす時間やその機会を望んでいる。

表3 「子どもを育てること」についての考え方に変化があったか

項目	クラス	3年保育	2年保育	3年保育	2年保育	3年保育	計 男 49 女 53 %		
		3歳	4歳	4歳	5歳	5歳			
変化した		男7女6	男9女10	男5女6	男8女9	男7女9	男36女40	男73.5	女75.5
変化しない		女2	男1女1	男1女2	女1	男1女1	男3女7	男6.1	女13.2
どちらともいえない		女1	女1	男3女3	男1	男1	男5女5	男10.2	女9.4
無回答		男1	女1	男1女1	男1		男3女2	男6.1	女3.8

表4 「変化した」と回答した対象者が、変化したと考えられること（複数回答有）

項目	クラス	3年保育	2年保育	3年保育	2年保育	3年保育	(男36 女40) %	
		3歳	4歳	4歳	5歳	5歳		
(1) 子どものしていることが理解できたり理解しようと思うようになった。		男7女6	男4女5	男2女4	男5女5	男1女5	男19女25	男52.8 女62.5
(2) 子どもにとって必要なものは何かを考えるようになった。		男3女5	男4女4	男3女3	男7女4	男4女3	男21女19	男58.3 女47.5
(3) 子育てに見通しをもつことが出きるようになった。		男1女2	男2	男1	男2	女2	男6女4	男16.7 女10.0
(4) 子育ては楽しいものと考えられるようになった。		男1女5	男1女2		男1女1	女1	男3女9	男8.3 女22.5
(5) 子どもと一緒に行動できる期間は短いので毎日を大切に積み重ねていこうと思った		男5女5	男7女6	男1女3	男6女5	男4女9	男23女28	男63.9 女70.0

(6) 子育ては自分自身も成長 することであり、子どもと共 に一歩ずつ歩んでいこうと思 うようになった。	男 5 女 4	男 4 女 8	男 2	男 7 女 8	男 5 女 8	男 23 女 28	男 63.9 女 70.0
(7) 我が子を自分だけの子ど もとしてだけでなく、これか らの社会を支えていく大切な 存在として考えるようになった。	男 1 女 3	男 3 女 4	女 1	男 3 女 2	男 1 女 2	男 8 女 12	男 22.2 女 30.0
(8) 子育ての喜びや悩みを、 他のお母さんたちと分かち合 うことの大切さを感じるよう になった。	女 2	男 2 女 4	男 1 女 1	男 2 女 3	男 1 女 3	男 6 女 13	男 16.7 女 32.5
(9) 子どもを育てることに対 して混乱したり、焦りや不安 を感じるようになった。	男 1	男 1	男 1		女 1	男 3 女 1	男 8.3 女 2.5
(10) その他 (子どもへの接し方を見直す チャンスになった。自分を反 省し、変わることができた。)	男 1	女 1				男 1 女 1	男 2.8 女 2.5

参考文献

- 1) 金田利子・杉浦一枝・田中私吉・外山知徳・山脇貞
司(編): ゆれうごく家族—地域は子どもをどう支え
るか—, ミネルヴァ書房, 1985.
- 2) 中林節子: 保育園で子育て井戸端会議を, 発達 72
号, pp.38-42, 1997.
- 3) 増田均: 地域づくりと子育てネットワーク, 大月書
店, 1986.
- 4) 伊藤良高: 子どもの環境と保育—少子社会の育児・
子育て論, 北樹出版, 2001.
- 5) 池亀卯女: 育児不安をこえる子育ての輪, 青樹社,
1996.
- 6) 増子勝義: 新世紀の家族さがし—おもしろ家族論,
学文社, 2000.

Title : A Study of Lecture Meetings and Childcare Activities in The Kindergarten

Sigeyoshi YAMAGUCHI(Faculty of Education, Okayama University)

Masae KONDO(Faculty of Education,Okayama University)

Yuko TAKAMI(Ishima Kindergarten)

Kumiko ODA(Joint Graduate School Ph.D.Program in the Science of School Education, Hyogo University of Teature Education)

Abstract : The purpose of this study was to examine the effect of our support of childcare activities: lecture meetings and activities with parents and children. Parents were asked how they accepted these activities and what changes were brought by them. The results showed that many parents took part in activities with children, and lecture meetings which had practical and concrete contents. And more than 70% of parents have changed their way of thinking.

Keywords : Childcare, Lecture meeting, Activity with parents and children
